

第10回日本循環制御医学会開催のご挨拶

会長 藤田昌雄

日本循環制御医学会の学術集会は、研究会から学会となって今回が3回目で、発足してから丁度10回目という節目であります。従来は日本麻酔学会の前日に行っていたのを、これを機会に同学会から切り離して開催してはという機運もあり、今回は思い切ってそうすることにいたしました。会員の皆様にできるだけ多数参加していただくよう、臨床に直結したプログラムを組んでみました。斎藤教授の御助言もあり、初めての試みとして Pro & Con をとり入れてみました。本邦では硬膜外麻酔と全身麻酔の併用麻酔法が諸外国に比べて多いように思われ、これが果たして心臓手術の麻酔にも安全に応用しうるかどうか、両麻酔法の長短を討議していただきたいと思いました。シンポジウムの「循環系モニターの現況と将来」では最新のテクノロジーとえられる情報の解析、価値などについての講演をうかがえるものと期待しております。次のシンポジウム「開心術をうけた患者の一般手術に対する術前評価」では、最近パイ

パス手術や弁置換術をうけた患者が、心臓以外の手術をうける機会が多くなって来ており、その術前評価について、麻酔科、心臓外科、循環器内科の3科で論じていただこうと思いました。

最後に特別講演に Sweden の Umeå 大学の Sebastian Reiz 教授をお招きしました。同教授はイソフルレンが強い冠動脈拡張薬であることを、臨床例で始めて示された方で、それ以来吸入麻酔薬による Coronary steal が問題となり、いまだに結論が出ていないのは雑誌「Anesthesiology」の editorial で何度かとり上げられていることでもお分りとお存じます。この機会に同教授の講演をきくのは意義深いものがあると思います。

一般演題は思いのほか沢山集まりましたが、特別講演、シンポジウム、Pro & Con のときは一般演題の発表は行わず、全員が参加できるようにプログラムを組みました。

会員の皆様の活発な討議により有意義な学会とさせていただくよう切に願っております。